

東部ネット 2010 年研修会第 1 回 (SIR 主催)

「子どもたちのための日本語・学習支援」

講師：静岡大学 矢崎満夫氏

2010/9/4 (土) 三島本町タワー会議室 13:30~16:30

研修内容

まず、映像資料『新宿区立未来の小学校』を視聴して子どもたちの問題点や支援のあり方についてディスカッションを行った。大久保小は児童の3人に1人が外国人という小学校。その中の韓国とタイから来日した児童はそれぞれ問題を抱えていたが、校長が外部と連携したり、キムチ授業やタイ語での授業を行ったりすることで子どもたちが変容した。自文化を認めてもらう喜び、自己肯定感、所属感が奇跡を起こした。次に資料『外国にルーツをもつ子どもたちへ 将来へ続く道』を使い、ジグソー学習による事例研究を行った。逆境をのりこえた陰には見守り支えてくれた人々との出会いがあった。また、ネットワーク形成支援や学生ボランティアによる「つながり」づくり支援に関する論文、年少者の第二言語習得や異文化理解等に関する参考資料が多数紹介された。



東部ネット 2010年研修会第2回（SIR 主催）

「現場での事例を聞く」

講師：富士宮市立富士根北小学校教諭 芦川容子氏

講師：富士市教育委員会外国人児童生徒 適応指導員 横山レイカ氏

講師：日本語ボランティア 石井千恵子氏

2010/10/2（土）三島本町タワー会議室 13：30～16：30

研修内容

芦川氏は教員の立場から富士宮市立富士根北小学校における外国人児童支援の取り組みについて紹介。これまでに生じた問題点は、学校内だけでなく国際交流協会などの周囲と協力体制をとることで対処してきた。意識を持ってアンテナを張っていると情報も得られる。横山氏は適応指導員の立場から、親の今後、特に帰国するかどうが未定のため不安定な子どもの富士市の事例を紹介。もう少し親が子どもの教育に関心を持って関わって欲しいと述べた。石井氏はボランティアとして外国人児童支援に関わってきた経緯と実際の活動について紹介。静岡県東部は散在地域で孤立しがちだが、場所と人材があればボランティアはできる。必要な支援が必要な時にできれば良いと述べた。質疑応答の後、問題点を出し合い、自分ができること、充実のために実現したいアイデアについて意見交換を行った。



東部ネット 2010年研修会第3回（SIR 主催）

「ボランティアとして年少者支援に関わるということ」

講師：NPO 浜松日本語・日本文化研究会 加藤庸子氏
2010/10/23（土）三島本町タワー会議室 13：30～16：30

研修内容

ワークグループの中で自己紹介をした後、「なぜ外国人の子どもたちのためにボランティアが必要なのか」について話し合った。「意味ある他者」がいるかいないかで子どもは変わる。親が具体的な道筋を描けない中で、特別に目をかけて応援してくれる人がいると逆境をのりこえられる。次に支援の具体的な方法（誰に・いつ・どこで・どのように行うか）を挙げた。「にほんご NPO」が学校へ入った経緯と実際の支援の様子が紹介され、ボランティアにできることは何か、期待されていることは何か、役割は何かについて考えた。所属欲が満たされないと勉強への意欲はわからない。子どもに寄り添うこと（居場所づくり）が大事。その上で、「足場をかける・やる気を引き出す・ほめる・はげます・見守る」を行う。人材の育成、教材の充実、安定的なボランティアの確保など、今後の課題は多い。



東部ネット 2010 年研修会第 4 回（SIR 主催）

「日本語指導における教材・教具と指導法の工夫」

講師：財団法人 波多野ファミリスクール 大蔵守久氏
2010/11/14（日）三島本町タワー会議室 13：30～16：30

研修内容

子どもたちは、個人差はあるが単語期〈0～1 か月〉・連結期〈1～3 か月〉・伸長期〈3～6 か月〉・定着期〈6 か月～〉のステップを踏んで、日本語を習得していく。各段階に応じた指導が日本語習得を促すのに効果的。語彙・文法・文型を指導する際に「ク（クイズ）・マ（マジック）・ゲ（ゲーム）・ジ（ジョーク）」などを取り入れ意欲を喚起して、語彙・文法・文型を指導。意欲がわからない⇒理解しきれない⇒覚えられない、という悪循環を断ち切る工夫が必要。そのほか、臨場感を持たせる・ちょっと考えさせる・欲張らない・指導項目の焦点化・変化のある繰り返し・スモールステップ、などに注意しながら指導する。文字指導では、何度も目に触れる工夫や、連想法・ユニット法を取り入れると良い。中学生の教科書読解は、漢字にルビをふっつけてくれる友人や先生を見つけて柔軟に行うと理解がすすむ。



東部ネット 2010 年研修会第 5 回（SIR 主催）

「外国人児童に対する国語指導の工夫」

講師：浜松市立佐鳴台小学校 櫻井敬子氏

2010/11/27（土）三島本町タワー会議室 13：30～16：30

研修内容

外国人児童に対しては、1.あらすじがわかる 2.使えることばを増やす 3.学年の文章に慣れ読み取り方がわかる 4.学習の姿勢を身につける、ことを目標に指導する。授業のはじめに日本語スキルの時間を入れる。1～2 年の間にできるだけ多く、「わかる喜び」「自分で解けた充実感」の経験をさせるとよい。説明文や物語文では、紙芝居・作業（切る・塗る・描く）・本物・ワークシートを活用し理解を助ける。書く指導では、1.モデルを示す 2.五感を使う 3.語例をあげる、などに留意しながら、レベル別ワークシートや付箋を活用しスモールステップで指導する。その他、ことばを増やす工夫、漢字指導、席をレベル別に分けるといった指導法もある。後半は参加者がグループに分かれて実際に教材を作って発表した。



東部ネット 2010 年研修会第 6 回（SIR 主催）

「研修会のまとめ」

2010/12/4（土）三島本町タワー会議室 13：30～16：30

研修内容

県教委指導主事・村松敦視氏が、静岡県の外国人児童生徒教育の現状や外国人児童生徒トータルサポート事業、県内各市町の取組みなどについて報告した後、質疑応答を行った。その後、東部日本語ボランティアネットワーク代表 相田孝光氏が団体設立の経緯、これまでの活動について説明した。

最後に 3 グループに分かれてこれまでの研修会を振り返り、各自参考になったこと、個人レベルでこれからの活動に活かしたい点などについて話し合った。また、東部地域全体を底上げしていくためのボランティア登録制度や継続的なサポート体制の構築、東部日本語ネットの活用、具体的な活動のアイデアなどについて活発な意見交換を行った。そして来年度以降も継続的に東部ネットを中心にして年少者支援を行っていくことになった。

